

男女共同参画の視点で女性たちが協力し合いエンパワーメントできる様な関係をイメージして名付けました。

シスターフッド

第 77 号(2026.3)



豊橋女性団体連絡会とは

女性の多様な活動が広がる中で、互いに切磋琢磨し、その持てる力を社会に向けて発揮していくことを目指しています。

「協働と共生」で様々な課題に取り組みながら、女性団体同士の交流を深めています。

令和 7 年度参加団体

わっぱの会、とよはし未来を拓く会、豊橋おやこ劇場協議会、東三にじの会、
新日本婦人の会豊橋支部、とよはし女性フォーラム、NPOとよはしCAP、ハッピーグループ、
NPO まんま、豊橋商工会議所女性会、農村輝きネット・東三河、ラ・ポール、JA 豊橋女性部会(休会)

女性団体連絡会を中心とした実行委員会の主催で、今年も男女共生フェスティバルが開催されました。

第39回豊橋男女共生フェスティバルに寄せて

夏目美鈴（副実行委員長・とよはし未来を拓く会）

2026年1月18日、『第39回豊橋男女共生フェスティバル』がライフポートとよはしにて開催されました。

講演会には、宮本延春さんをお招きし、『オール1の落ちこぼれ、教師から主夫になる～性別では決まらない役割分担～』と題して、講演をいただきました。

様々な厳しい環境の変化の中で、その時々明るく逞しく柔軟に、そして前向きに生き抜いてこられた宮本さんの体験は、多くの参加者に深い感銘を与えました。

講演会のほか、フェスティバルでは3つの分科会をはじめ、ふれあいコンサート、絵本でティータイム、バザーなど、多彩な催しが行われました。

また本年は、豊橋女性団体連絡会（前身を含む）が創立80周年を迎える節目の年にあたります。これを機に、フェスティバル実行委員会に加盟し、その活動の一環として来場者に冊子「豊橋の女性活動のあゆみ」を配布し、戦後80年間にわたる本市の女性活動の歴史を紹介しました。

豊橋の女性活動は、昭和21年の「婦人講座」にその端を発します。戦後の厳しい時代の中、生活を立て直し、より良い社会を築きたいという思いを抱いた先輩方によって始められました。

以来80年、一人ひとりが力を合わせ、仲間とともに歩んできた積み重ねが、今日の私たちの活動の礎となっています。

今ここで、先輩方の思いと努力を改めて振り返るとともに、これからの未来を見つめ、次の世代へと希望をつないでいく契機となることを願っています。

フェスティバルの分科会で

水谷津太枝（新日本婦人の会豊橋支部）

分科会の『子育てで困ったしゃべり場』を担当し4回目になります。

臨床心理士の福田歌織さんを講師に、発達障害、不登校、引きこもりなど、子育てに困難を抱える家族がざっくばらんに話せる場にしたいと思い、企画しています。

今年は、参加者が少なかったですが、その分個人の悩みに深く寄り添えた気がしました。主催者側に不登校の子を育てた体験者がいるので、実際の進路（通信制高校や定時制高校の様子）が聞けたのが良かったようです。

市の相談機関についても良く知らないようだったので、用意していただいた相談窓口を紹介できたのも良かったと思います。参加者の方が最終的には明るい顔をして帰っていかれたので良かったと思いました。

課題としては、むずかしいかもしれませんが、市の担当者さんが同席していただけると直接支援につなげていけるかなと思いました。

今年はもう一つ展示企画として高校生の描いた原爆の絵も飾らせていただきました。



高校生の描いた原爆の絵とは、広島平和記念資料館と広島市立基町高校の共同事業として 2007 年に始まったものの。被爆体験者の話を聞き、記憶に残る光景を生徒が 1 年近くかけて書き上げる共同制作で、207 点のうち 12 点をイーゼルの上下に絵と説明を展示。

約 50 人の見学者があり、戦争とは、原爆とは、平和とは、を考える機会になったと思います。

戦争はいけない。豊川海軍工廠のことなど言葉をかけていただきました。一人の方が感想文に証言のお話をお聞きした上で手がけられたとのことあまりにリアルな写実的で、非人道的な兵器であり百害あって一利なしだと思うと寄せられました。



毎年、『三遠南信女性交流会』を行っています。

豊橋市、浜松市、飯田市の 3 市の女性団体が一堂に会し、学びあい、交流することで、お互いの活動の刺激や励みになっています。今年は飯田市にての開催。豊橋からは 6 団体 7 名の参加でした。

三遠南信地域女性交流会 飯田市

渡辺則子（NPO まんま）

2025 年 10 月 22 日（水）飯田市で開催された、三遠南信地域女性交流会に豊橋からバスで参加しました。車内では美声が響き、和やかで楽しい時間でした。飯田市は人形劇フェスティバルを通し関心を持っていましたが、今回、生涯学習のまちであることを、幾度も学ばせて頂くことになりました。

2022 年に飯田駅前に開館した丘の上結いスクエアが会場でした。2 階に公民館と共生・協働推進課、3 階には公民館、駅前図書館、平和記念館、教育支援センター『びーいんぐ』があります。飯田駅前の複合施設で、生涯学習活動が日常的に展開されていることから、飯田市の皆さまの意気込みを感じました。ここには演劇ホールはありませんが、豊橋駅南に、30 年前計画されていたく総合文化学習センターへの疑似体験をすることができたことは幸いでした。

飯田市の皆さまがご準備下さった今年のテーマは、『松尾多勢子一幕末の女性の生き方』。貴重な学びの後、お心尽くしの美味しいお弁当をいただき、続く交流会ではさらに、皆さまと気持ちが近くなりました。

最後のお楽しみは、『そらさんぽ』。天竜川の 80M 上から天龍峡を渡る飯田線を迎えて、豊橋へと見送る時間。見事なセッティング！ 忘れられない旅となりました。ありがとうございます。

今回、飯田市の三遠南信地域女性交流会で『松尾多勢子』に出合わせて頂いたことで、『信濃のおんな』（もろさわようこ著）を読み返したくなりました。講師の青木隆幸氏（長野県立歴史館 名誉学芸員）のご講演は圧巻でした。江戸時代から明治維新にかけて動乱の日々に、飯田の里から歴史に切り込んだ女性が居たこと、皇国の女丈夫の決死の上洛といわれながら、和歌の聖地京都に自ら赴く、「ロールモデルのないすがすがしい生き方」。ここに焦点を当てられた青木先生のお話の切り口に引き込まれ、何度も画面を確認しました。

時は閏月（注）として、8 月が 2 回ある文久 2 年。「皇国の志に燃える多勢子は尊攘運動に飛び込むべく、8 月 1 日、急ぎ京都に向かった」（市村）説では、10 日で上洛となっている。実は、40

日かけてゆくりと上洛していることになるというわけです。なぜか。先生のスライドが目には刺さります。「若者を戦いに駆り立てる勇ましい『多勢子』 それは 100 年経った今も、変わらない 相変わらず彼女は、『皇国』『女丈夫』の中にいる」と。歴史を振り返ると、ことに、今、この下りが重く伝わります。

当時に誘い込まれた境地になり、とにかく『多勢子』について知りたいと、交流会の翌日、豊橋市中央図書館で『火桜が根』（藤本ひとみ著）を借りました。多勢子のすごさは、「豪農の家の、家事・社交を仕切る賢い女性 多彩で広い人脈 それを支えたのは、和歌の素養。」「予定調和という



（心地よい居場所）を自ら拒絶する意思 そしてたぐいまれな魅力」と、先生が言われた通りです。私は、加えて多勢子の経済力とお金の使い方にしびれました。

『多勢子』に触発された仲間と共に、飯田市再訪を願っています。丘の上結いスクエア 3 階の平和記念館の 173 部隊の資料のこと、お隣の阿智村の『満蒙開拓平和記念館』、そして、もちろん、『そらさんぽ』も。

（注：Yahoo 検索 2025 年は旧暦において 6 月が 2 回ある、閏 6 月となる年なので、2025 年の日数は 384 日）



今年度の研修会の一つとして、豊橋市男女共同参画に向けた取り組みと成果と課題について学ぼうと、豊橋市役所市民協働推進課の方にお話をいただきました。

豊橋市の取り組みについて・・・豊橋市男女共同参画基本計画を中心にお話を伺いました。

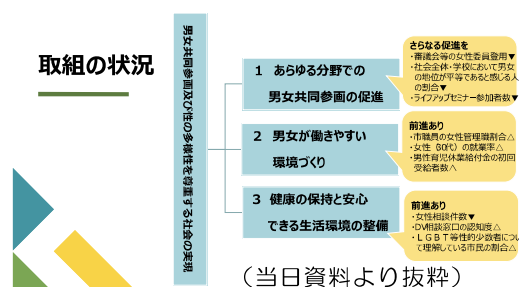
今回の研修では、まず計画の体系についてご説明いただき、その後、主な事業内容や現状の取組、そして見えてきた課題について共有していただきました。

豊橋市では、男女共同参画と性の多様性を尊重する社会の実現に向け、次の 3 つの基本目標をあげています。

- 1. あらゆる分野での男女共同参画の促進
- 2. 男女が働きやすい環境づくり
- 3. 健康の保持と安心できる生活環境の整備

これらの目標に基づき、市は施策の方向性を定め、計画的に取り組を進めています。

また、国の「第 6 次男女共同参画基本計画（骨子案）」が示されていたことから、従来の第 5 次計画からの変更点についても補足説明があり、国の動きと市の計画とのつながりを理解する機会となりました。



*** 本年度もご愛読ありがとうございました ***

【奥付】豊橋女性団体連絡会広報誌シスターフッド 2026 年 3 月 18 日発行

編集・発行担当者 大谷靖子（豊橋おやこ劇場協議会）、朝倉三恵（東三にじの会）
水谷津太枝（新日本婦人の会豊橋支部）